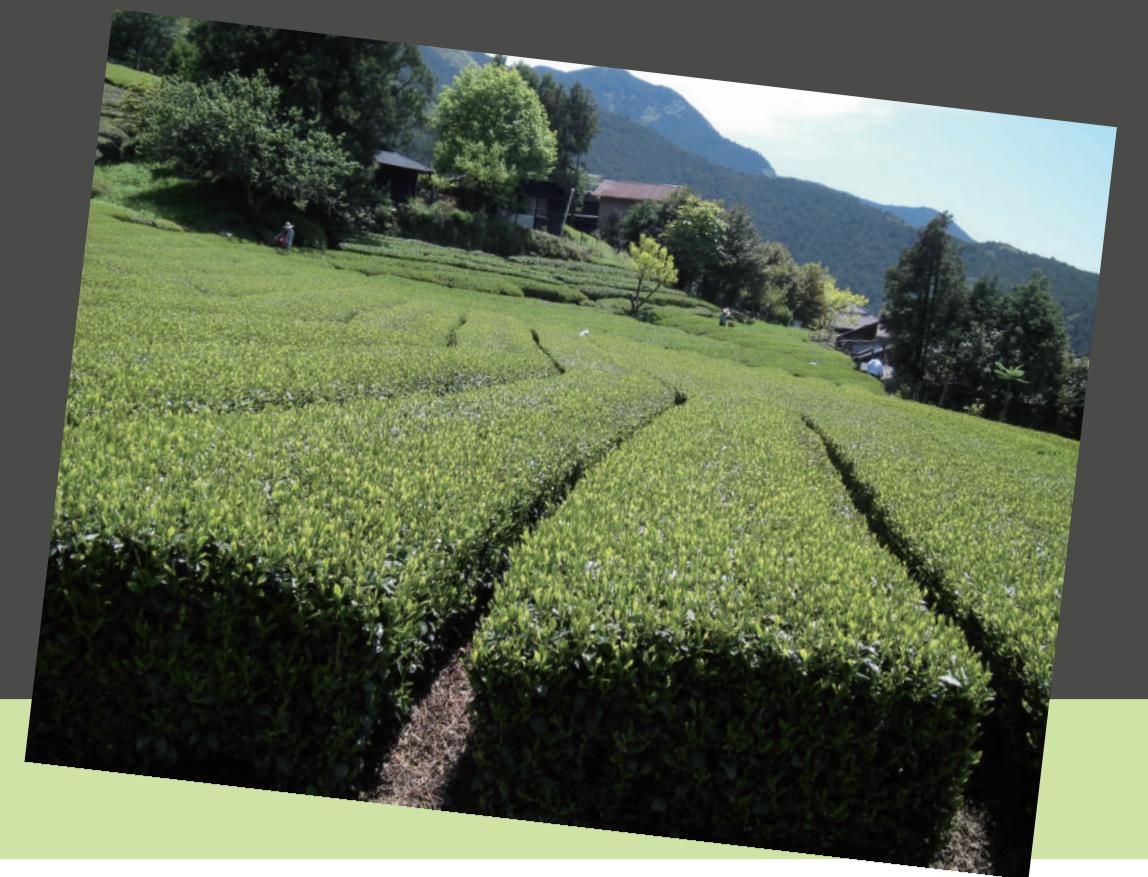


中山間地域の未来を考える

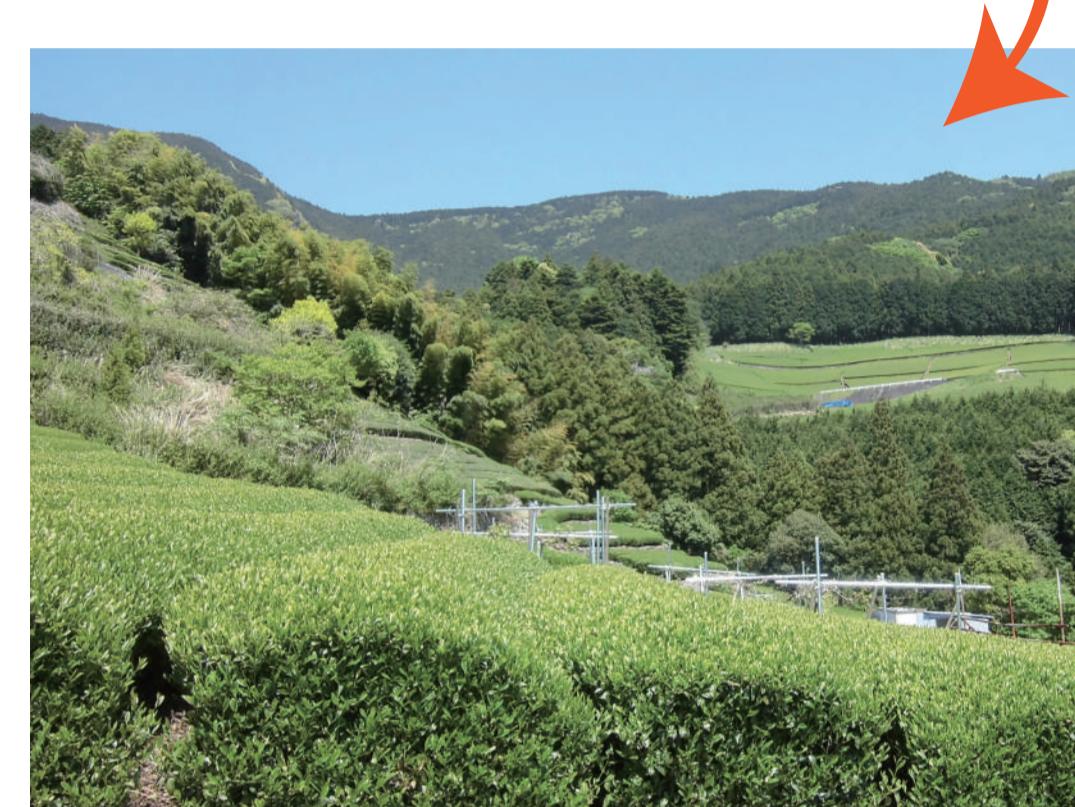
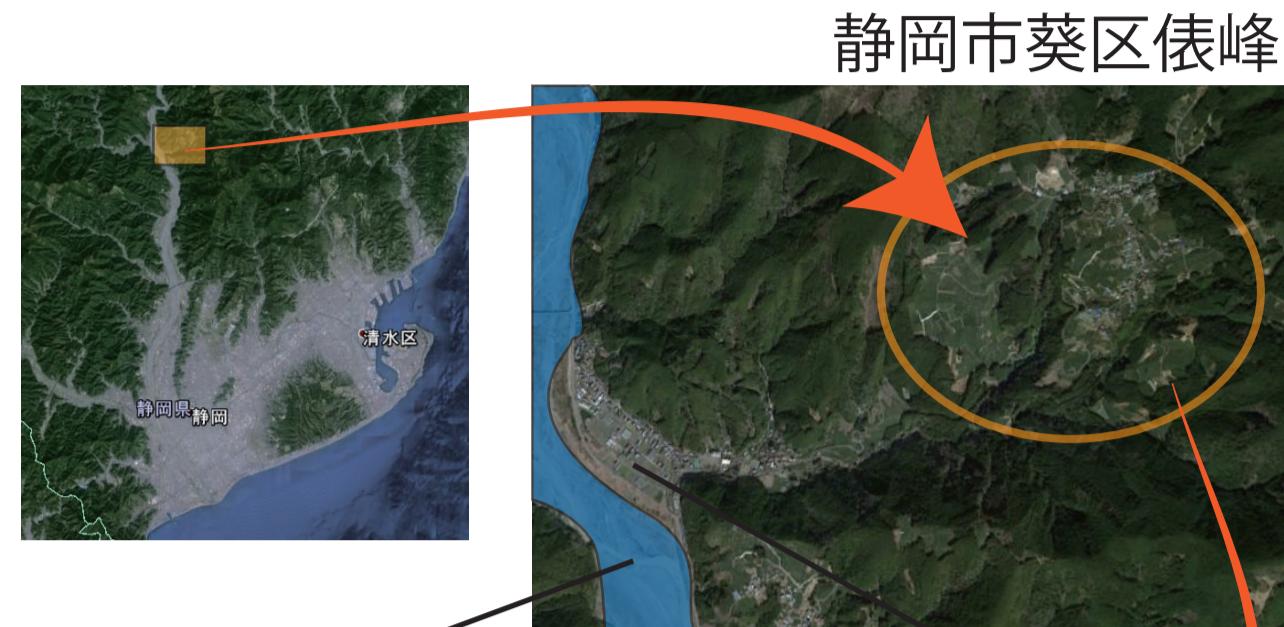
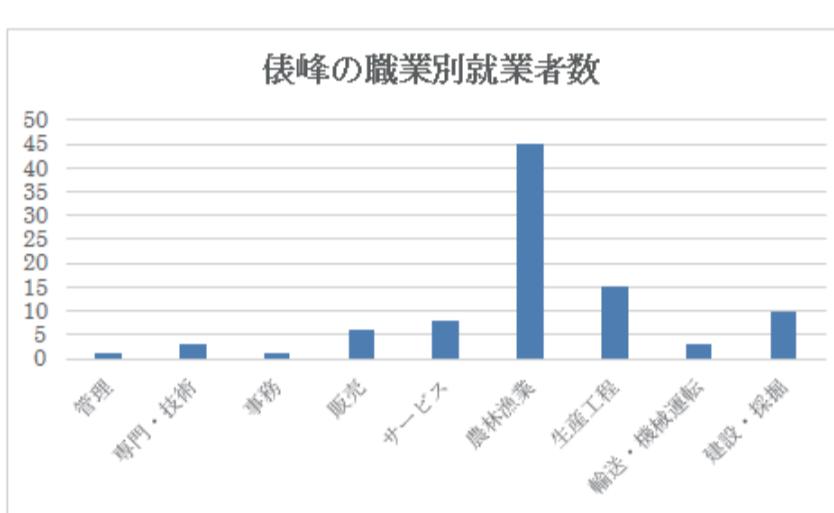
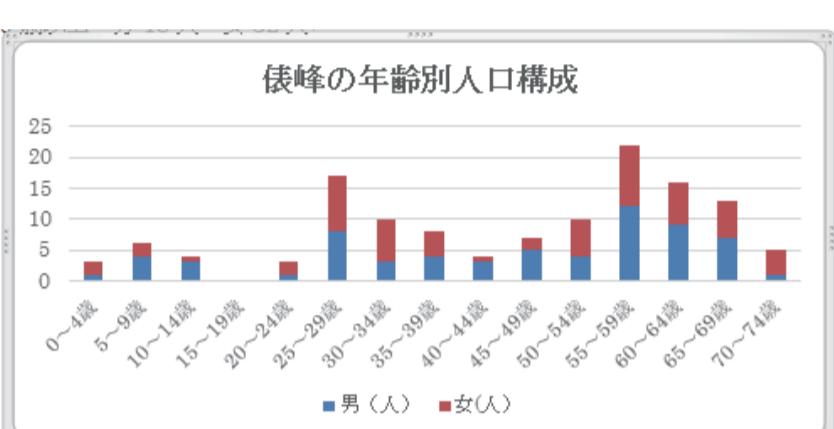
～ 静岡県・俵峰～



▶ 対象地：静岡市の中山間地域「俵峰」集落

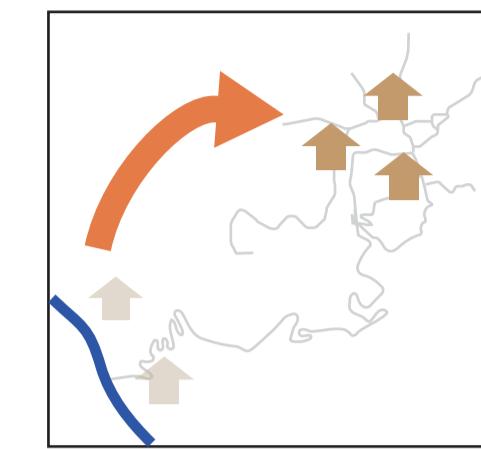
俵峰は、標高 500m の山間にある集落で、茶の栽培で有名。急斜面につづら折り状に作られた茶畠が美しい景観を作り出している。

人口総数：160 人 世帯総数：45 世帯
15 歳未満 男 8 人 女 5 人
15～64 歳 男 49 人 女 48 人
65 歳以上 男 18 人 女 32 人



▶ 歴史的背景

江戸時代 俵峰に人々が移り住み、稲作を始める



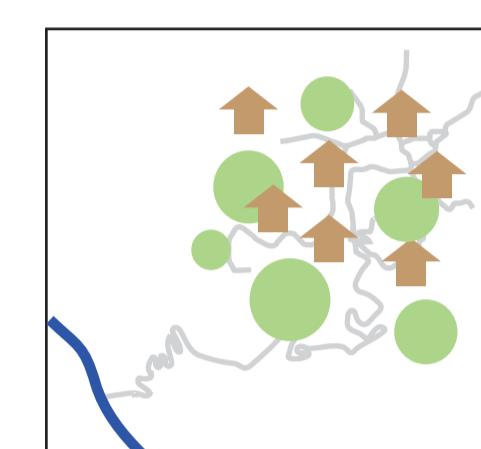
ふもとからの移住

昭和 10 年頃 俵峰でお茶づくりが始まる



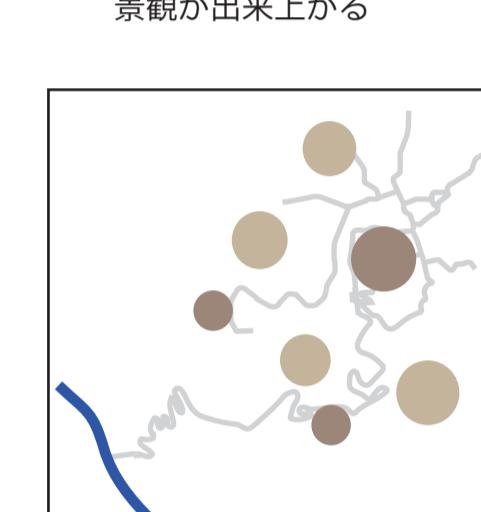
茶畠ができる始める

昭和 40 年頃 俵沢から俵峰への道路、俵峰内の道路が整備される



俵峰の全盛期・現在の景観が出来上がる

現在 少しづつ過疎高齢化が進む
茶畠面積が減少

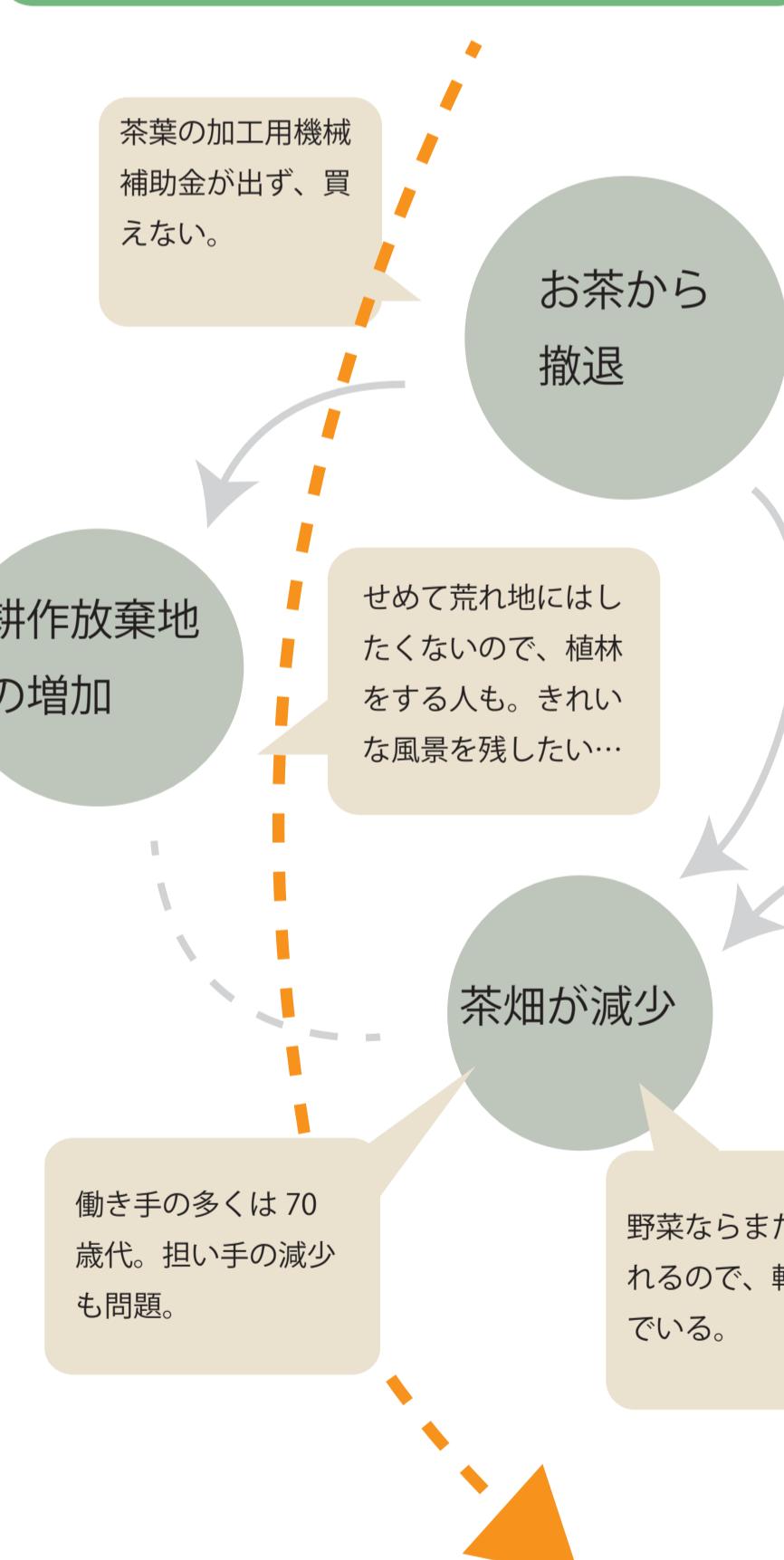


住民ゼロ・集落は荒れ果てる?

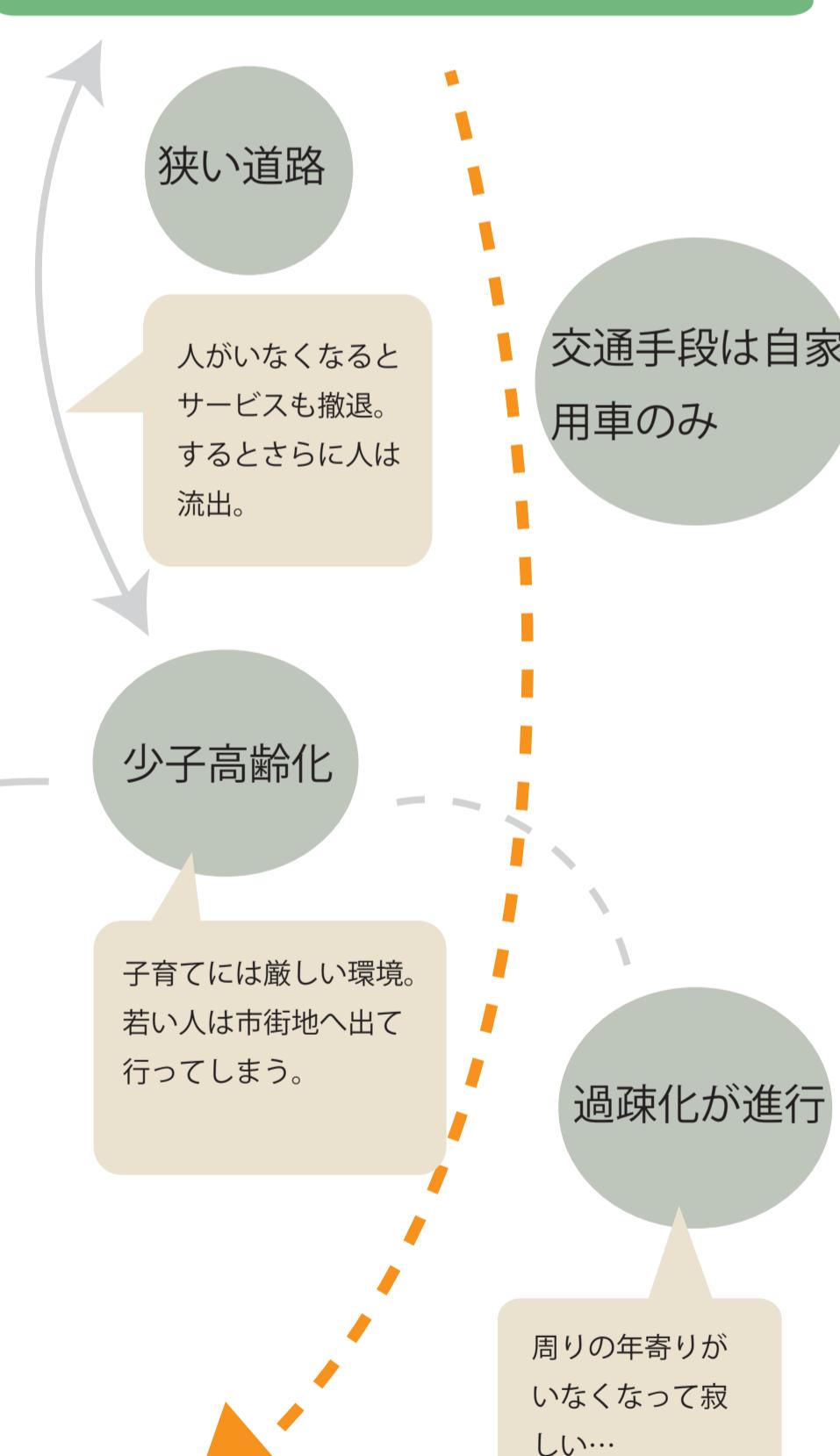
将来 (2034 年頃) 人口減少、お茶づくりができなくなる?
集落消滅・独特の景観は失われる??

▶ 地域の抱える問題～インタビュー調査を通してわかったこと～

茶の価格が下落し採算が取れない



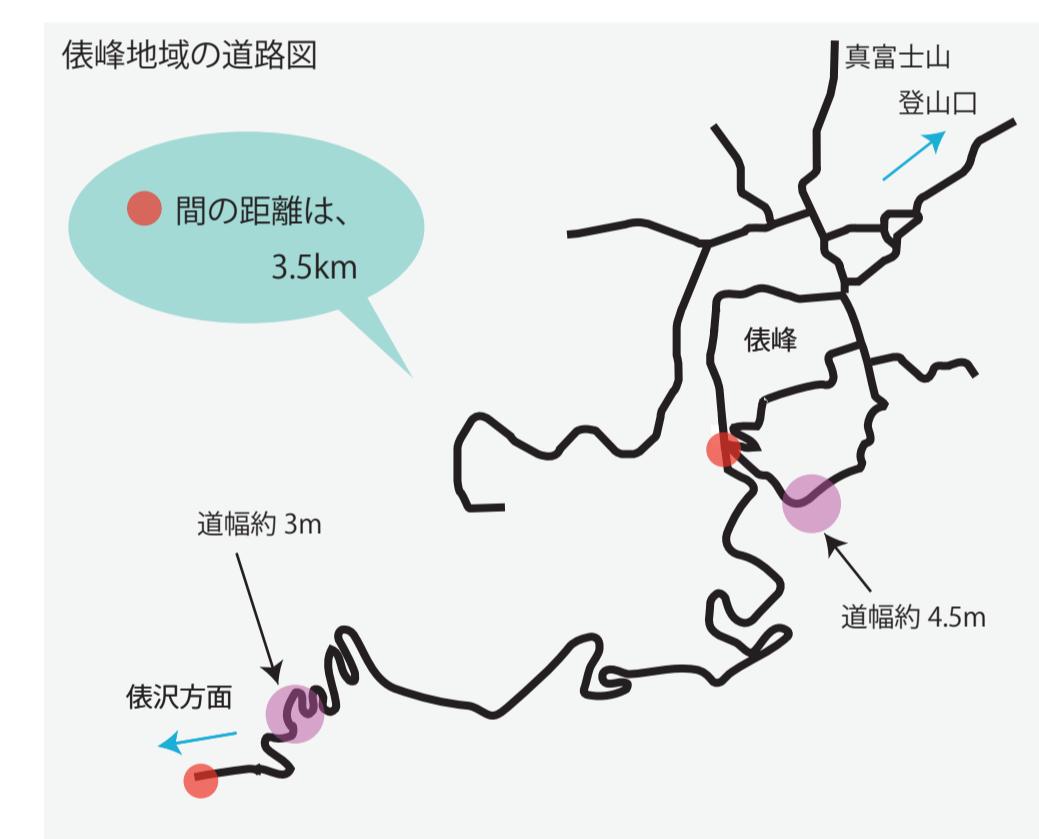
商業・教育・医療施設、交通機関がなく生活が不便



集落と茶畠が織りなす俵峯らしい美しさが失われる

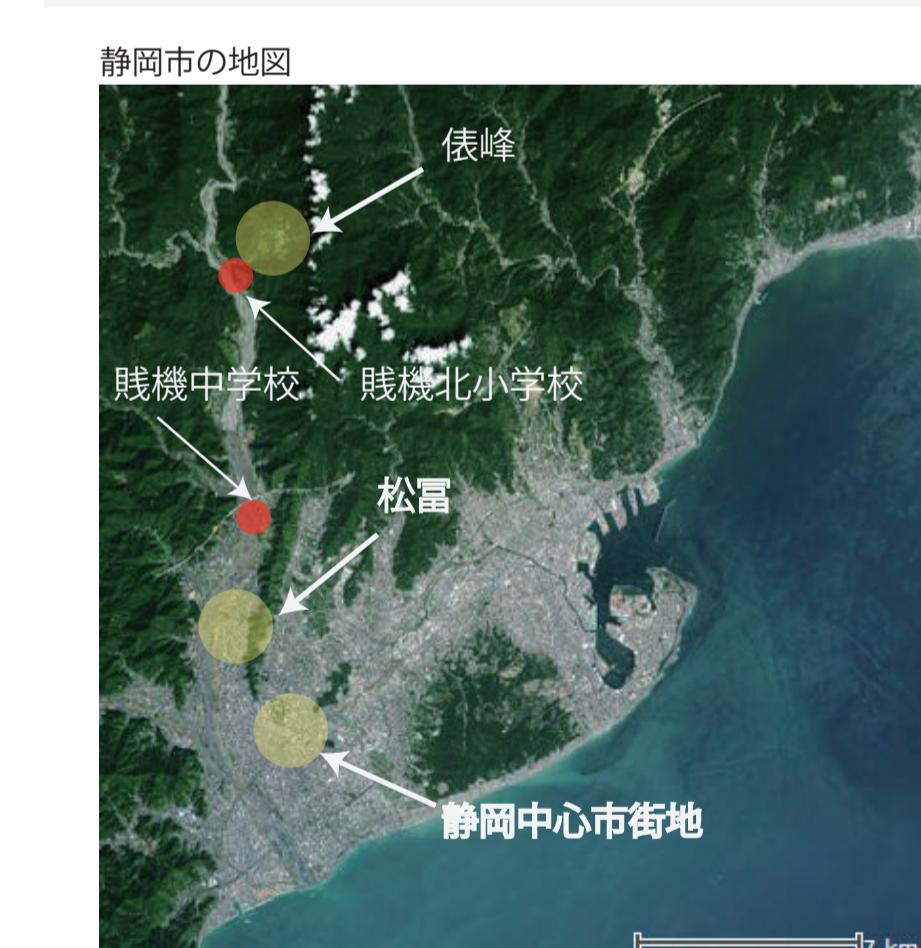
交通事情

- 日常の移動手段は、車。集落の方は慣れているので、狭い道でもスピードをほとんど落とさないし、すれ違うポイントも把握しているのであまり困っていない。(外部からの人はかなりきつい道。)
- 運転できない人は、俵沢のバス停まで歩いたり、送つてもらったり。(バス停まで歩くと約 1 時間かかる。)
- 集落内部に駐車場はない。外部の人が車を止めるスペースもほぼない。

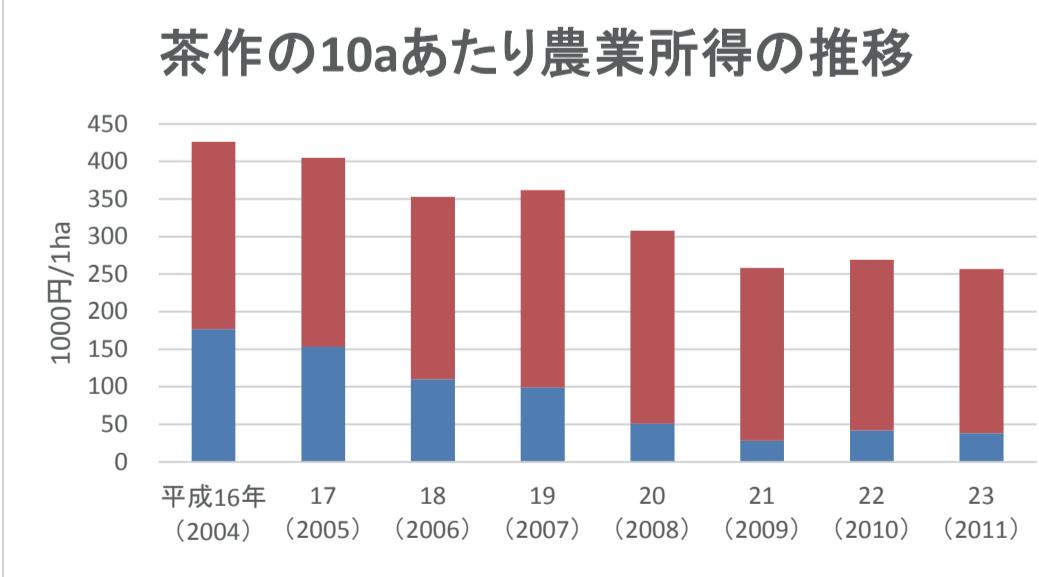
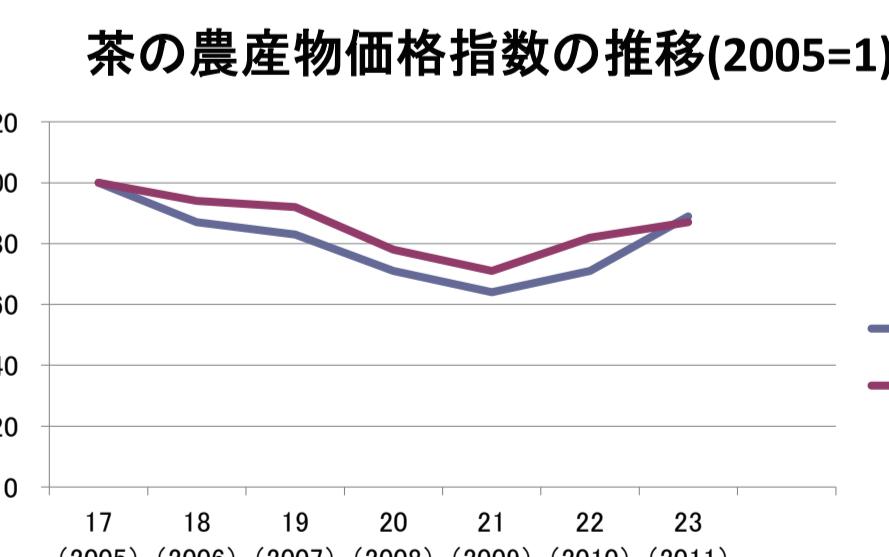


外部とのかかわり

- 周辺集落（俵沢など）との関わりはほとんどない。俵峰に住む子供が、俵沢にある賤機北小学校に通うぐらい。(小学校までは、俵峰に住む小学生を持つ親が交代で送り迎えしている。)
- 中学校はさらに南にあり、親が送り迎えするか、市内に通勤している人がまとめて送っていくという。
- 普段使う最寄りのスーパー・病院は、松富にあり、俵沢のバス停からバス代片道 25 分 540 円。
- 俵峰に住む人が、俵峰の外に行くのは人によって異なり、週 2~3 日から毎日まで。行先は、職場（中心市街地）だったり、買い物や通院（松富）だったり。・外部の人が俵峰にくることはあまりないが、時々登山道に入るために人が来ることはある。



農業事情



▶ 課題・コンセプト

集落と住民に心地よい規模の茶畠を残す

既存のコミュニティを維持しつつ、住民が手を施せる範囲で茶畠の景観を保全する。この地を訪れた人も住んでいる人も心地よい空間をデザインする。

